

言語の研究

第 5 号

『源氏物語』諸写本に見られる助動詞ムズ	竹部 歩美	1
新しい接尾語「クナイ」の使用実態と その拡大について	津村 彩子	(1)
日本語と広東語にある入声音を含む二字漢語の 対照研究 —日本語母語話者の促音知覚を中心に—	盧 文静	(17)
中国華北東北方言学習者における日本語の母音/a/と /e/の混同に関わる要因について	李 惠	(31)
現代日本語に欠落している字順の逆転する二字漢語 「BA」の出自について —辞典の初出用例の問題を中心に—	馬 雲	(45)
国会会議録にみられる〈ら入れ言葉〉の 使用実態について	浅川 哲也	(57)

首都大学東京
言語研究会
2019.7

言語の研究

第5号

首都大学東京言語研究会

GENGO NO KENKYU
(Inquires into Japanese Language)

No. 5 July, 2019

CONTENTS

TAKEBE Ayumi : A study of the auxiliary verb “muzu” found in the manuscript of “the Tale of Genji”	1
TSUMURA Ayako : Actual condition of use of new suffix “—kunai” and the expansion	(1)
LU Wenjing : A contrastive study of two-characters including Nissho-on in Japanese and Cantonese : Focusing on the perception of geminate consonants by Japanese native speakers	(17)
LI Hui : The factors involved in the confusion of Japanese vowel /a/ and /e/ for Chinese Northeast and North Learners	(31)
MA Yun : The Origin Of The Two-character Kanji Words with Reverse Order in Modern Japanese but not in Modern Chinese with the earliest source of the word in the dictionary as the center	(45)
ASAKAWA Tetsuya : About use actuality of “rairekotoba” in the minutes of the Japanese Diet.	(57)

Edited
By

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY GENGO KENKYUKAI
HACHIOJI, TOKYO

編集後記

元号が令和となって最初の『言語の研究』の発行が第5号である。本誌に投稿してくださった会員の御研鑽と、本会の運営委員の御尽力により、本誌第5号を発行することができた。衷心より御礼を申し上げる。

本号の編集の経緯は次のとおりである。本号には、学術論文として八件の投稿があり、八件が査読の対象となった。八件のうち一件が査読委員による査読を経て「採用」となり、五件が「修正採用」、二件が「再投稿」となった。「再投稿」は、その二件とも投稿者より投稿取り下げの旨の申し出があった。この結果、本号に掲載された学術論文の数は六件である。

御多用中のところ、査読を快くお引き受け下さった先生がたには改めて御礼を申し上げます。
会員の優れた学術論文を学界に広めるために、本誌が少しでもお役に立つことができれば、会として幸いである。会員の皆様には奮って玉稿の御投稿を賜わりたい。

二〇一九年五月七日 浅川 哲也

首都大学東京 言語研究会

会長 浅川哲也

副会長 神田明延

運営委員 李 讓珍・グリブ、デイナー・竹部歩美・

馬 雲・山本 淳・吉田永弘・劉 志偉

(五十音順)

編集主任 浅川哲也

査読協力 手坂凡子・朴 錦女・劉 永亮 (五十音順)

言語の研究 第5号

二〇一九年七月二五日印刷

二〇一九年七月三〇日発行

発行者 首都大学東京 言語研究会

代表者 浅川 哲也

〒一九二一〇三九七

東京都八王子市南大沢一―一

首都大学東京 人文科学研究科

日本語教育学事務室気付

電話番号 〇四二・六七七・二一九四

振替口座 一〇〇七〇―二七〇六三八一

(ゆうちょ銀行)

印刷所 株式会社 秀飯舎